

柴北川プロジェクト通信 36号

— 平成26年度・収穫祭 — 平成26年10月25日(土)~26日(日)

1. はじめに

6月22日(日)に実施した田植会のことが思い出されますが、その苗が立派な稲穂となり、稲刈りができるようになりました。すっかり恒例行事として定着してきましたが、今年も波多野会員の呼び掛けで「大分市立西の台小学校ととろクラブ」からの大勢の子どもさんの参加もあり、大変賑わいました。

また、前日には、久々に「柴北川を愛する会」と「共助研」の意見交換も行いました。

2. 稲刈りの様子

10月26日(日)10時、恒例の稲刈りの開始です。柴北川を愛する会の穴見会長他の挨拶の後、稲作班長の安藤さんより鎌の使い方や刈った稲束を結ぶ方法等の説明を受け、稲刈りが始まりました。今回は、共助研のもう一つのプロジェクトでお付き合いしている「奥雲仙の自然を守る会」の方々の参加もありました。

稲刈りの主役はやはり子供達、大人に負けず大きな戦力で予定以上のテンポで無事、終了しました。



写真一1 稲刈りの全体風景・平成26年度(「柴北川だより」より)



写真一2 稲刈り風景1



写真一3 稲刈り風景2

3. 楽しい昼食タイム、ギター演奏、神楽、そして大ビンゴ大会

旧長谷小学校体育館に移動して楽しい昼食タイムです。いつも紹介していますが、柴北川レディースの皆様方によるランチは、今年は、「カレーライス+漬物バイキング+野菜サラダ+3種類のデザート+コーヒー」でした。これで、合計500円です。これだけでも訪れた甲斐があったというものです。



写真一4 今年のランチメニューの様子（「柴北川だより」より）

また、毎回活躍頂いている矢ヶ部会員が、ギター演奏で昼食タイムをやさしく包んでくれました。

昼食後は、神楽を披露して頂きました。激しい動きと太鼓・笛の迫力には、いつも驚かされますが、演目の「柴曳き」は、演者と子供達の追いかっこが楽しく、会場は笑いで一杯でした。そして五穀舞ではたくさんのお菓子が撒かれ、大人たちも縁起物として拾わせて頂きました。

締め括りは、今年は「大ビンゴ大会でした」。共助研メンバーにも、賞品が当たりました。



写真一五 矢ヶ部会員のギター演奏



写真一六 神楽・柴曳き



写真一七 奥雲仙の自然を守る会の方々

4. 前日の意見交換会と懇親会

柴北川を愛する会との交流が始まって早 5 年が経過しようとしています。昨年度には、この地域で「若手研修会」兼「長谷地区のあした 検討会」を開催させて頂き、課題解決へ向けてのプロジェクト等をみんなでまとめて行きました（詳細は、共助研 HP.ご参照）。

その後の動きや最近の動き等を互いに確認するために、主なメンバーで前日の 16 時頃より、意見交換を行いました。その様子や概要は、次のとおりでした。



写真一八 意見交換会の様子

————— 意見交換会での主な意見等（波木事務局長のまとめ参照） —————

（以下の意見等について、細かいニュアンス等に誤解がある場合は、この報告者・木寺の責任です）

（１）これまでの活動を振り返る

●愛する会活動全般について

- ・これまでの活動で、長谷がまとまってきていると思われることは素晴らしい。
- ・田植え・稲刈りの人数が増えると、大変という感もある。
- ・大人の参加も増やしたい。青年会も少しずつ草狩りに参加⇒新たに３人が参加。
- ・レディースの弁当作りは、作業量がわからず戸惑っている。いつも苦労を掛けている。
- ・高齢化を見据えた活動の方向が課題。
- ・活動について、地元にとどれだけ貢献できるか課題（高齢化・福祉等に対して）。

●活動のひろがりについて

- ・草切りの後の飲み会が楽しみに。 ・飲み会は必要、効果がある。
- ・参加できる人ばかりのかたまりになってしまったとの課題も感じる。
- ・会員でないと、参加できない、参加しづらいと思われているかも知れない。
- ・一般の人も、声をかければ活動に参加する可能性はあると思う。
- ・少人数の活動でも悪くはないと思う。

●情報発信について

- ・長谷地区に「愛する会」の活動が十分には浸透していない。
- ・地元長谷地区内での発信は不十分ではある。

●子供の参加・交流について

- ・今年の田植え会に、地元の子は参加していない。以前は参加していたが、成長とともに欠席。
- ・学校でも、稲刈り・田植えの体験学習をしており、稲刈りに飽きている。
- ・地元の子供が楽しめる工夫が必要。
- ・マチと地元。特に子供同士が知り合うきっかけ・機会をつくる。
- ・地元の子から、マチの子にインタビュー等のアイデアも考えられる。
- ・子供の神楽を見せると良い。 ・子供たち間でゲームをすると良い。
- ・地元のシニアと都市の子供との交流も良いのでは。
- ・プレイパークが注目されている。長谷地区には、田植え・稲刈りの場所他、たくさん活用できる場所や人材も豊富と思う。

●参考となる情報の収集について

- ・他の地域でのおもてなしについて情報集めは必要。
- ・他の団体の田植え・稲刈りのやり方を調べることも重要。

●共助研の役割について

- ・共助研が入らないと、ここまで活動ができなかったと思われる。
- ・マチから来る側の大きな楽しみとしては、地元の人と会え、触れ合える、教えてもらうということに喜びを感じている。
- ・共助研として、他の地域のやり方を研究する必要はあると思う。

●長谷開発との関係について

- ・地域の拠点づくりは、長谷開発で検討されている。
- ・長谷開発は、長谷地区全体を対象としている。一方、柴北川を愛する会は、対象エリアは限られており、拠点づくり（カフェ・ギャラリー等）は、長谷地区全体のことで、長谷開発の検討課題となっている。

(2) これからの活動をどうするか

●長谷開発との関係について

- ・長谷開発と愛する会との関係は？⇒長谷全体をどうするかは、長谷開発の役割と思う。
- ・長谷開発は、長谷地域振興協議会への改組。協議会でできないこと等を、愛する会でやることが考えられる。また、支援できることがあるかも知れないし、逆に支援してもらうこともあるかも知れない。

●愛する会の活動やプロジェクトについて

- ・共助研はまちとの交流のパイプ役となっており、さらに交流継続ができればと思っている。
- ・里山の年寄と、マチの子供達との交流は意義があると思う。
- ・合併浄化槽（生活環境部）は進んできている。
- ・大分県生活環境部で河川の環境美化活動⇒大野川流域ネットに協力要請。合併浄化槽の普及。

共助研側からは「この交流をさらに発展させるアイデア等がこれまで出ているが、進まない理由は何でしょうか等」の少々不躰な質問等もさせて頂きましたが、実情等を丁寧に説明して頂きました。

意見交換の内容を要約することは、約5年間の足取りを振り返れば簡単なことではありませんが、敢えて私見として整理させてもらえば、以下のようになると思います。

- ① 「愛する会」と「共助研」の交流が地域の刺激になっていることは間違いない。その結果、長谷地区のまとまりにも良い影響が出ている。
- ② 活動メンバーが固定化されてきている。また高齢化も進んでいる。時には、活動が負担と感ずることもある。この問題は、「愛する会」と「共助研」ともに共通することである。
- ③ メンバーを広げれば良いというものでもないが、情報発信や声掛けは、もっとやった方がよい。
- ④ 長谷地区の拠点づくり（カフェ・ギャラリー等）は、長谷地区全体の問題であり、「愛する会」のテーマというよりも、長谷全体を対象としている「長谷地区振興協議会」のテーマとなっている。
- ⑤ 田植えや稲刈りに地元の子供の参加が少ないのは少々気掛かり。地元の子供にも興味を持ってもらう工夫が必要かも知れない。
- ⑥ 地元シニアと都市部の子供達との交流を広げて行ければ、一つの新しい展開になる可能性がある。
- ⑦ 昨年度の検討会でのプロジェクトの一つとして上がった「合併浄化槽設置推進」は、豊後大野市全体での取り組みが再度始まっている。
- ⑧ 新しい展開を目指すことも重要かも知れないが、現在の交流を継続・維持して行くことが重要である。そうすることで、新しいこともできるかも知れない。

以上のように、昨年度の「若手研修会」兼「長谷地区のあした 検討会」で検討したことが、一部は進んでいるし、愛する会とは別途「長谷地区振興協議会」で検討されていることが確認できました。また、組織運営の課題等は、愛する会も共助研とも共通している、と考えさせられました。

共助研としては、引き続きの交流を行っていくことで、お役に立てることがあればと希望致します。

さて、少々真面目な話はここまでとして、夜は、「民泊・三浦亭」へ移動して、大歓迎会を開催して頂きました。ごちそうの紹介を細かくすることは、参加できなかった共助研メンバーに憚られますので、恒例の「柴北のズワイガニ」等々でもてなしを受けたことのみ報告させて頂きます。なお、「柴北のズワイガニ」こと「モクズカニ」の調理前と後の写真を紹介させて頂きます（調理前の写真は、渡邊さんブログ「柴北川だより」より拝借させていただきました）。



写真一〇 柴北のズワイガニ



写真一九 柴北のズワイガニ（調理後）、右下は三浦さん栽培の種無しカボス

三浦様ご夫妻、特に奥様、大変お世話をお掛けいたしました。厚く御礼申し上げます。なお、今後の宿泊は、三浦亭のみならず、愛する会の会員宅に分宿も可能になったということです。その際、互いに気兼ねをしないように、ルール作りも検討中とのことでした。長いお付き合いのお陰でしょうか、このようなことが進んでおり、楽しみがまた一つ増えそうな気配です。その内、共助研メンバー宅への分宿も話題になるかも知れません。

翌日の朝は、前泊メンバーは、三浦さんのカボス園へも案内して頂きました。そして、昼食会場の旧長谷小学校体育館での机、椅子等の準備を手伝わせて頂きました。

5. さいごに

田植え、稲刈り、竹林整備そして意見交換会等、柴北（長谷地区）での交流は、回数を重ねながらますます楽しく、有意義な機会となってきています。また、今回は、雲仙の「奥雲仙を守る会」よりの参加も得られました。交流が思わぬ形で広がってきています。

共助研メンバーは、買い求めた農産物や頂いた三浦さん栽培のカボス等々のおみやげ一杯で、自宅にたどり着くまで大変でした。柴北川を愛する会の方々をはじめ、またまたそしてまた、大変お世話になりました。疲れはしましたが、心には暖かく、心地良いものが残りました。

互いに、準備等々、苦勞も多いことかと思いますが、里山シニアと都市部シニアとの交流を基本としながら、互いの地区の子供達、若者へ輪を広げて行ければと思いました。

—— わが愛する友よ、われわれが死ぬときには、われわれが生まれたときより世の中を少しなりともよくして往こうではないか—— ジョン・ハーシェル（内村鑑三：「後世への最大遺物」より）

（文責：木寺、 写真：渡邊、矢ヶ部、波木）



写真一 11 今回の一枚（稲刈り終了後の田んぼでみんな一緒に！）